令和5～6年度　経常研究

ライフスタイル変化を踏まえた北海道における新たな住宅像に関する探索的研究

背景と目的

・近年、共働き世帯の増加や少子化による世帯人数の減少、住宅内での滞在時間の増加など、ライフスタイルに急激な変化が生じています。これに伴い、建築主が住宅に求めるニーズや、それに応じた住宅のプラン・デザインにも変化が生じていることが予想されます。
・本研究では、北海道内の設計者への聞き取り調査を通じて、住まい方やライフスタイル変化を考慮した、北海道における新たな住宅像を探索することを目的とします(図1)。

成　　果

A．住宅設計やライフスタイルの変化

・2008年から2022年の15年間における道内全体の注文住宅の着工数は、2013年に最多、2022年に最少となりました。一方で市町村ごとに見ると、約30%の市町村では2022年の着工数が15年間の平均を上回っており、地域によって着工状況に差があることが分かりました（図2）。
・道内で注文住宅を購入した人の67.1%は共働きであることなど、ライフスタイルに変化が生じていることを把握しました(図3)。

B．北海道における新たな住宅像の探索

・アンケートの結果と道内主要ハウスメーカーへの聞き取り調査の結果は類似した傾向でした。そのため、ハウスメーカーへの聞き取り調査の結果を一般的なニーズと捉え、建築家・工務店への調査結果と比較しました。その結果、以下のような新たな住宅像の兆しを抽出することができました（表1）。

- 延べ面積が統計値よりも小さくなったこと
- 家族の団らんがダイニングで行なわれ、またTVを見ない建築主がいることで、リビングが小さくなったこと
- 客間や和室・廊下が無くなったこと
- 掃き出し窓を使用した出入口が採用され玄関空間がなくなる事例があること
- ファミリークロークなどの普及により各室の収納がなくなり、特に子供部屋の面積が小さくなること

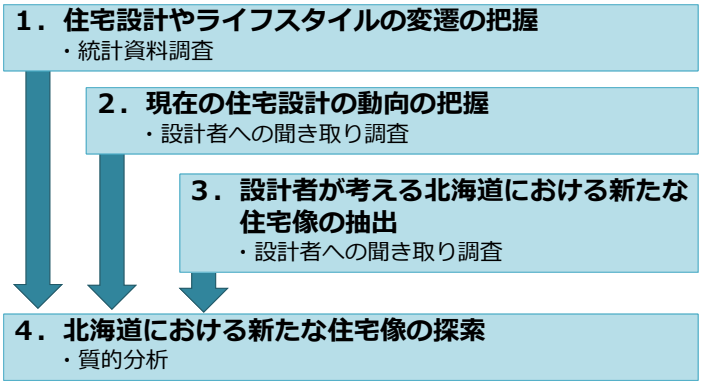

図1　研究フロー

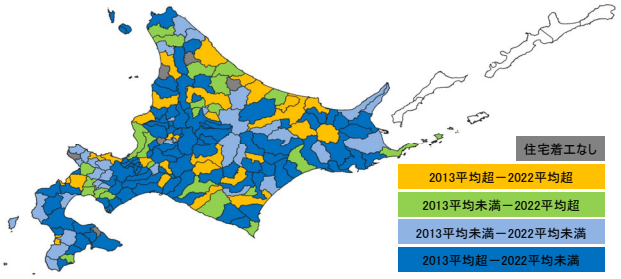

図２　北海道の注文住宅の着工状況
（北海道住宅データバンク）

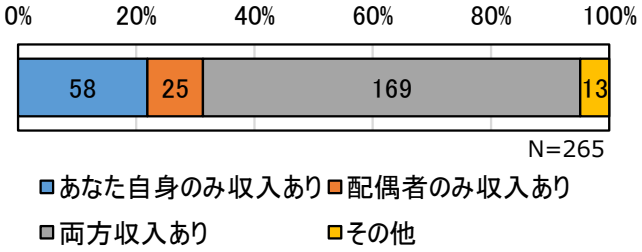

図３　新築注文住宅を購入した世帯の共働き状況
（Webアンケートの結果）

表１　新たな住宅像の兆し

道内で一般的な住宅（ハウスメーカー）	項目	新たな兆し（主に建築家＋工務店）
断熱：等級6～7、気密：0.5c㎡/㎡以下	断熱・気密性能	断熱：等級6～7、気密：0.5c㎡/㎡程度
30～35坪（旭川以北だと40坪超も）	延べ面積	30坪を下回る物件も
面積変わらず有	リビング	面積小、無の事例も（ダイニングで集まって暮らす）
有	客間	無（来客の減）
最近増（2～3割）	和室・畳	無（畳スペースは有の場合も）
5～6畳で収納も有	子ども部屋	4～5畳で収納は無
有	玄関	面積小、無の事例も（直接リビング。掃き出し窓を採用）
ほぼ無	風除室	ほぼ無（道北のある地域では有の場合も）
ほぼ無	勝手口	ほぼ無（道北のある地域では有の場合も）
有	廊下	ほぼ無
脱衣所と併せて有	室内干しスペース	脱衣所と併せて有
脱衣所とは別に独立して有	洗面所	脱衣所とは別に独立して有
コロナで増、最近は減	テレワークブース	コロナで増、最近は減
増（他の収納はそのまま）	ファミリークローク シューズクローク	増（他の収納は減）
少ない（維持管理の問題）	自然素材	多い
最近はほぼ有（冷暖併用）	エアコン	最近はほぼ有（冷暖併用）
無（札幌ではわずかにニーズ有）	太陽光発電	無

ライフスタイルや社会変化等の影響

成果の活用

本研究の成果は、道や市町村などで住宅施策の検討を進める際に活用されます。

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 建築研究本部　Building Research Department, HRO